

此段上申候也

明治十年十一月廿日 開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

長官

書記官

會計課

乙亥九月廿日

記録課

官金損失之由

50

明治八年十月廿二日 爲使官額金三百三十拾千圓

拾千八厘ヲ以開拓院事業之爲購入

後志金山港ニ於テ船積之上石移

暴風激浪之為所破川口ハ漂流之船者共二日
 身命ヲ施所禦之策ヲ盡木毛 愈損 傷重
 船中ハ僅カニ身命ヲ全フスルヲ得タリトモ
 終ニ因テ於テ船體破壊積荷悉皆及沈没ニ付
 有里員為使損失ニおき事出後上申也
 明治十年十一月廿八日

再此を以て黒田清隆

右以て三條實美殿

上申趣聞置候事

明治十年十二月十二日

太政大臣三條

長及

右外務省御使

多事及

多計課

記録課

乙未九月二十日

右外務省御使上申

明治八年七月二十日御使上申の謄本を以て
 郡富田分署に於て為付置候事御使上申
 ハ拾七回九拾七回とあり高田に於て拾七回
 以上可成りありとあり本署に於て二回あり
 御使上申の謄本を以て